

地区復興まちづくり便りへの意見等

※○番号は第1回資料で紹介したものの再掲です。

■検討会の進め方・メンバーについて

| | |
|---|---|
| ① | 「地区復興まちづくりの会」構成メンバーについてどのような基準で選考しているか知る由もないが、もし、構成メンバーが高齢者又は、高年齢者が主流となっているのであれば極めて不安である。未来のまちづくりを考えるのであれば、担い手である児童生徒の提案が必要不可欠と考える。学校教育の現場に協力を頂き作文などの形で提案を求めたらどうですか？ (60歳代 男性) |
| ② | 『現在各地で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入っておりますが』の表示について、今まで当地区では1回も解されること無く経過しており、このことについて地区民の討論をしながら相談していかなくてはならないと思う。行政連絡員、分団の方が積極的に行動してほしい。 (60歳代 男性) |
| ③ | どこでどのように検討会が開催されているのか分かりません。人事では無く積極的に復興に参加させて頂ければと思っています。また、世代別の意見を聞く機会が必要と思われれます。検討会のメンバーになるためにはどうしたらよいのでしょうか？ (50歳代 女性) |
| 4 | 向町では、他県や盛岡に一時避難されている方がいます。地区の情報提供や意見募集をしていただき、できれば「地区の会報」を発行してほしいです。 (50歳代 男性) |

■河川堤防・防潮堤について

| | |
|---|---|
| ① | 津波により、宮古橋（旧橋）～小山田橋付近までの閉伊川の堤防（南町～宮町地域）を超えての浸水があった。堤防の嵩上げを考えてほしい。非常に不安な気持ちで住んでいる。 (30歳代 男性) |
| ② | 嵩上げ堤防の延長高さ等はあまり賛成できない、時間と費用がかかり過ぎそう。 (匿名) |
| ③ | ・防潮堤の天端に2mおき程度にポールを建てて、ワイヤーを張り津波時のガレキ、船、車の流入を防ぐ。 (80歳代 男性) |

■道路・交通について

| | |
|---|---|
| ① | 3.11災害時には、90歳の母はトイレの関係から飲水を我慢し、胆石を発症、又、佐原の市営アパートに住む娘は0歳児（生後4ヶ月）を抱え、ミルクや水、米が底をついた。宮古病院に入院させるのも、佐原に粉ミルク、水、米を届けるのも常安寺の交通規制遮断によって搬送ができなかった。速やかに市街地（消防庁舎）と宮古病院を最短でつくアクセスルートを開設すべきである。 (60歳代 男性) |
| ② | ・山口川をBOXにして、その上を道路にして欲しい。避難道路として利用できる。(80歳代 男性) |

■まちづくりの方向性について

| | |
|---|--|
| ① | 安心を与えてくれる町にしたい。(してほしい) (30歳代 男性) |
| ② | 災害に強い街づくりは勿論これからの若い人たちが地元に残り働ける場所の確保、都の歴史。 |

| | |
|---|--|
| | 特性を生かした活用を行政におねがいます。(60歳代 男性) |
| 3 | もとの型に戻すのではなく長い将来を見据えての復興を望みます。(50歳代 女性) |
| 4 | <p>いくら防潮堤を高くしても津波、地震の自然の力には人間は勝てない。太古の時代先任達は高台に住んでおり、人災は無かったはず。現代でも賢い方は高台に住んでいる。(檜内、松月、大付)等「現代」車社会になり、3~5分すれば海辺低地から高台に避難できる。道路を整備し、各エリアを決め人が住む所、生産する所を決めなければ新しい町づくりは出来ない。</p> <p>考える基本的な事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人間の命が大番大切であるんだ。 2、地理的な条件(日本列島の構成) 3、歴史を調べる。 4、自分の物(土地)と言うものはあり得ない。地球上のものは人間だけでなく全ての生き物である。人間の欲望私物化であってはならない。全て世の中人間がする事であって良くするも悪くするも生きている人間が後世の事を考えてやるべきだ。 <p>今すぐやるべき事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、個々人の立ち上がり。町内、分団等各組織の再構築。町無人化しており情報収集連絡等取りようが無い。新しい町づくり検討会がつくられたが機能されているのか?疑問である、行政側は個々人に入り当たってもらいたい。策定までしらみつぶし。 2、市役所の場所と45号大橋106号国道の交互の高潮の関係。 3、高台移転場所置地の確定。 4、街づくりの一番「ガン」末広町。歩道がない一方通行避難路大通りから横町に抜ける道がない。 5、街づくり検討委員会の機能疑問。宮古生まれ、育ちの古老参加望む。 6、町の人口10年もすれば5万人を切ると思う。人口が減れば町はゴーストタウン化する。緑がない空間がない。ぎすぎすしている。この機会に館合から⇒光岸地に道路を拡張してもらいたい。 <p>この本を読んで復興まちづくりを考えてほしい。「志は老いず」 (男性)</p> |

■移転先について

| | |
|---|---|
| ① | <p>新川町は、大潮満潮時は浸水の状況。勿論高台を望むが必ずしも高台とは考えず南西北側と最も職場に近い高台を選択されても良いのでは。通勤時のラッシュも少しは緩和される、因みに職場は津軽石ですが45号線は混んで時間がかかる津波を考えた場合裏街道の道と住宅が安全。かと言って以前住んでいた所から遠く離れがたく中間の八木沢・磯鶏地区が望ましい。高浜、金浜、その南の山はあまり険しくない山並みで平らにして街が出来そう。南・西・北側と三方に移転されても良いのでは、最も町場に近く、分散されても良いかと。小山田(ドラ近くの山)八木沢の山、等の造成、山口周辺の山など(奥の地でもまだまだある。) (匿名)</p> |
| 2 | <p>向町は高齢者の世帯が多く高台移転は難しいです。高齢者はやはり市内の平地の場所がよいと思います。比較的津波の影響が少ない小沢、西町、山口方面か近内、千徳方面であれば、高齢者の方でも移転可能だと思います。病院や買い物等に便利です。できれば、向町に建築許可を出してほしいです。それが無理であれば、向町に5階建ての公営住宅を建築して被災地の方を</p> |

| | |
|--|--|
| | 優先して入居させる方法は高台移転よりは高齢者の世帯の多い向町には良い案だと思います。 (50 歳代 男性) |
|--|--|

■商店街について

| | |
|---|--|
| ① | 末広町、中央商店街に挟まれた当商店街は解体が3件、廃業が3件で商店街と言えなくなってしまいこのうち駐車場が2か所になっている。復興、復興とみなさん叫んでいるが私は商店街の復旧が先で中心市街地には食料品等物販の店も僅かで住民がすごく不便しています。店舗等の建築は装柱に検討してください、商店街が並ばなければ復興は遠いものになり賑やかさ戻らないと思う。 (60 歳代 男性) |
| ② | 末広町に関しては現在の場所を一箇所でも用が済ませられるような街づくり。防災施設を強化しコミュニティを考えた商店街。 (60 歳代 男性) |

■観光について

| | |
|---|--|
| ① | 市街地を賑わう町にするために観光地として魚菜市場を駅の近くに移動し観光客が町をゆったり歩いて、お土産を買ったり、食堂、喫茶店などに入れるようにしてはどうでしょうか。自然エネルギーについて、自然がいっぱいの宮古市の良い所を十分に生かし共に観光の名所にしてはどうでしょうか。川井のタイムグラ、新里地区など色々な素晴らしい所がいっぱいあると思います。 (50 歳代 女性) |
|---|--|

■支援等について

| | |
|---|--|
| ① | ・建物の構造規制を伴う場合、金銭的補助制度をつくってほしい。 (80 歳代 女性) |
|---|--|

■山口川の対策について

| | |
|---|--|
| 1 | <p>1、旧山口川からの危険</p> <p>今震災で和見町東地区は床上、床下浸水が8世帯位と軽微でした。又、当地区は数年前の大雨による山口川上流の氾濫でも住宅地が冠水しました。旧山口川べりは、直近まで住宅が建築されており対策が難しいと思いますが以下の内容を検討して頂きたくよろしくお願い申し上げます。</p> <p>①川幅の拡張と街づくり</p> <p>岩見医院後ろから川幅を拡張し、川べりを歩道専用とする。川の北側を住宅地とし、川と旧国道（末広町）を都市計画案にある道路拡張し、道路と川の間を緑地公園とする。南側を商業地として魅力ある商店街を目指してはどうだろうか。和見地区も川幅を拡張か高くかして貰いたい。末広町付近の川幅の拡張や嵩上げがなされれば、当地区もその対策の延長線上で考えられると思います。</p> <p>②防災センターの建設</p> <p>当地区の避難場所は山口小学校です。しかし、当震災では山口小に避難するには「橋」を渡らなければならず、冠水寸前の状況は危険で3割の住民は合同庁舎や消防署に避難しました。また高齢者や障害者の方にとっても小学校はたいへんでした。また、当地区には会館はなく保久田の市分館を利用させてもらっていますが、保久田、西町、緑ヶ丘等含めての「多目的に利用</p> |
|---|--|

できる防災センター」建設の検討をお願いいたします。

③旧山口川水量調整について

川には小沢等の上流から水と山口川分流調整の役を担っていると思います。また、今震災での上流への可動堰の開閉の問題もありました。現在黒田町や宮古小付近の管の埋設工事を行っているようですが、洪水対策でしょうか。そうだとすると、上流からの危険度は緩和されると思いますが、大雨時の旧山口川水量や津波での可動堰調整ほどの部署が行っているのか、また責任はどこか、地区で勝手に調整できるのか等再確認して、関係自治会、住民に明確にしていただきたいと思います。

(60歳代 男性)